

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102772		
法人名	医療法人社団総文会		
事業所名	グループホームあだち		
所在地	岐阜市大池町58-1		
自己評価作成日	令和4年11月20日	評価結果市町村受理日	令和5年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JieyosyoCd=2170102772-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が利用者様一人ひとりと向き合い笑顔で優しく声掛けをし、寝たきりにしない、させないを目標としてとります。これらの活動を継続することにより職員や他の入居者様との間でお互いに理解しあえる馴染みの関係を築けるよう日々心掛けていきます。
また、医療体制は(内科医師・精神科医師・歯科医師による定期的な往診・訪問看護・連携病院は岐阜市民病院等)万全を期しており、入居者様や職員も安心・安全に暮らしていけることをモットーとし家族が希望されれば終末の看取りも可能な施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は医療法人社団であり、代表は精神科の専門医である。専門的な対応を望み他の施設や当クリニックに通院していた住民の入居申し込みが多い。利用者は、内科、精神科、歯科の医師の定期的な往診と訪問看護師により、手厚い医療体制の中で安心して生活ができています。また、看取り体制を整え、利用者と家族の希望に沿って支援を行っている。「なじみの関係」と称し、3人ほどの職員がチームで担当する受け持ち制を導入し、利用者一人ひとりに寄り添った支援を目指している。管理者と職員は密にコミュニケーションをとり、一丸となって介護の質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心」「安楽」「安全」をモットーに運営理念、介護理念を踏まえ、全体会議の中で管理者、職員が理念に基づいた介護が出来るように話し合いを持っている。	理念は、居間への掲示と全体会議等で共有し、職員は常に意識しながら支援に努めている。利用者の誕生日に渡す色紙には、管理者はじめ職員や他の利用者からのメッセージと共に理念も書いており、色紙を見て再認しながらケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。近所の保育園との交流会、敬老会などコロナ禍でなかなか参加できないが、情報を頂いている。	自治会に入会しており、新型コロナ以前は地域との交流があったが、現在は活動を休止している。近隣保育園の慰問や和太鼓のイベントなど、事業所で開催するイベント情報等を発信していたが、現在は民生委員への案内に留めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナの影響により地域の行事自体が開催出来ない状況にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前は2ヶ月に1回運営推進会議を開催していたが、コロナ禍で開催が難しい。民生委員・自治会代表・包括センター・介護保険課の方にFAX、TELで情報を共有し、ホームの活動報告を行い助言を頂きサービス向上に努めている。	新型コロナの影響もあり、書面開催としている。自治会長、民生委員、地域包括支援センター、市役所担当者に会議報告書をFaxにて送り、電話などで意見や助言を得て運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時市の職員と連絡を取り協力関係を築くよう取り組んでいる。	市役所の生活福祉課、障害福祉課、介護保険課など、関係各所と電話や訪問にて連絡・報告を行い、その都度助言を得ている。生活保護や精神疾患に関する支援を受けている利用者も多い事業所のため、関係機関との連絡は密に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等にも参加し、全体会議において、身体拘束について勉強し、身体拘束マニュアルを作成し、拘束をしないケアに取り組んでいる。拘束をした場合、拘束委員会で話し合い他の職員に伝えている。	ケアの振り返りをしながら、不適切なケアについても研修会を行っている。職員の全体会議において、3カ月に1回身体拘束検討委員会を行い、身体拘束及び、拘束の弊害も正しく理解を深められるよう学んでいる。現在、身体拘束が必要な利用者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し拘束委員会を1か月に1度開催し、全体会議の際に職員全員と情報を共有している。		

岐阜県 グループホームあだち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理念として「安心・安全・安楽」を掲げています。制度については全体会議の際に学ぶ必要と思われる利用者様には支援を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に本人や家族と面談を行い、契約書、重要事項説明書等で利用者や家族に説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見・要望はいつでも聞き入れる体制を取っている。また玄関に意見箱を設置、ご意見などを自由に書いて頂けるようになっている。意見があった場合直ちに上司へ報告を行っている。	精神疾患のある利用者も多く、不安にならないよう配慮しながら家族への報告や対応をしている。対面、電話、文書等で家族への連絡方法を工夫しているが、3か月に1度電話でもフォローをしている。全家族に、利用者の近況を記した用紙を請求書に同封し送っている。	写真の送付、電話や携帯メッセージ等での連絡に対し、反応を得ることが難しい家族も多い。また利用者の情報を不要とする家族もあるが、望む家族もあるため、意向を再確認し個別の対応策を講じられることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全体会議を行い、管理者と職員が勤務体制やヒヤリハットの検討を行い、より良いサービスの実現に努めている。	職員は、管理者に業務中や申し送り時に、気づきや意見を伝え易い関係にある。今年、新しい職員が入り、職員間でコミュニケーションを図りながら意見交換を行い、ケアの充実に向け取り組んでいる。管理者は、職員の意見や提案を聞き、運営に反映するよう努めている。	精神疾患を有する利用者への支援や看取りケアの学習会、ケアカンファレンスの導入、マニュアルの整備、研修の計画など再検討し、新旧職員それぞれの経験値を活かし、職場内の安定と、更なるサービスの向上に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の際の研修や費用の負担など職員が向上心を持って働けるよう支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自分の興味ある研修に参加できるよう情報提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加、同一法人内の他の職員との情報交換をしたり相互訪問している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族と面談し、本人の要望などをよく聞き、要望を職員間で共有している。本人家族の意向を出来る限り実現していけるよう周知し取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、介護職員が本人と家族と入居前に面談し、不安な事、困っていることについて話し合っている。本人の望むサービスの実現に取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、介護職員が本人家族と入居前に面談し、必要な支援について話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームであるため利用者様の残存機能を生かし、出来ることはやって頂くようにしている。職員は一緒に生活する家族のような関係で見守りながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、本人の要望・様子などを電話で報告したり、手紙で報告したりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の思い出話や過去の話を受容できるようにしている。入所時本人家族から生活背景等の情報収集を行い、部屋に馴染みの物をおいている。	法人の方針で、家族や知り合いとの面会は、新型コロナウイルスの国内治療薬が出るまで休止するとし、対応をしている。家族の希望に寄っては、利用者との窓越しの面会を行っている。居室に家族の写真を飾るなど、本人のこれまでの生活史に配慮した取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関わり合いがスムーズにできるよう職員が常に配慮している。又、誕生会や行事などレクリエーションを通し交流の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・要望があれば積極的に支援していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日頃の会話の中で得た情報の共有をしている。モニタリングの中で本人、ご家族の意向や思いを聞き、ケアプランを作成している。	疾患と認知症の進行のため、意向を表現することが難しい利用者や家族も多い。3人程の職員1チームで担当する「なじみの関係」と称する受け持ち制を導入し、より密な関係の中で意向や思いを察知するよう努めている。知り得た情報は、全職員で共有しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や経過人物像などの情報を収集し、職員間で共有している。入居から新たに発覚する情報もあるため、随時カンファレンスにて周知し、対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前にはどのような生活をしていたのか、それを踏まえて当ホームではどの過ごされるのが心地良いのか検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が毎月モニタリングをし、サービス担当者会議を開き話し合っている。3ヶ月毎にケアプランの見直しを行っている。	毎月、モニタリング会議を開催している。担当者とケアマネージャーが、「なじみの関係」や受け持ち以外の職員から得た利用者と家族の情報、担当の医師及び訪問看護師から得た情報を反映させた介護計画を作成している。立案、修正した計画は、家族に報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録日誌に介護計画の内容について※を記入し実践している。全体会議において職員全員で介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況に応じて予定外のことであっても出来るだけ希望に沿った対応をするよう心掛けている。		

岐阜県 グループホームあだち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が不安がないように市役所と連携をとりながら安全な暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医(内科・精神科)は月2回の定期健診と24時間電話連絡がとれる体制になっている。必要に応じて訪問看護も利用している。歯科治療も歯科医・歯科衛生士が月2回往診し、治療・口腔ケアを行っている。	契約時に、かかりつけ医と協力医について説明し、現在は全利用者が協力医を選択している。月2回の往診と訪問歯科、訪問看護師による医療支援体制がある。医師同士の連携も良く、利用者の状態について細やかな助言があり、ケアに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制の訪問看護ステーションと連携しており、日常の健康管理で気づくことがあればいつでも電話連絡し相談・指示を仰ぐことができる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に病院へサマリーを渡して情報提供している。退院時に看護サマリーをもらい、退院後の生活がスムーズに送れるように医療機関との情報交換をしている。また職員も入院先を訪問し様子をみている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員が本人、家族との面談で終末について意向を聞き、取り決めをし、内容を文書化して家族に署名捺印を頂き、職員間でも内容について方針を共有している。状態変化の際には再度確認している。	入居時に重度化や終末期の方針について、利用者と家族の意向を確認している。看取りケア時には、医師や訪問看護師と連携しながら支援に取り組んでいる。コロナ禍にあり、面会を制限しているが、終末期には、10分程度の面会を許可している。看取りケア前・中・後のカンファレンスの実施も今後検討していくとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の全体会議において必要に応じて随時行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っている。夜間の火災を想定した訓練と水害を想定した訓練を実施している。	年2回夜間想定での避難訓練を実施している。また、水害想定での垂直避難なども検討を重ねている。地域の防災訓練への参加は、コロナ収束後に再開する予定としている。管理者は消防団員として地域と情報交換を図っている。	備蓄品のローリングストック、災害時の天候や気候を考慮した避難対策、外あるいは垂直避難後の対応、自治会や民生委員を入れた緊急連絡網の作成なども含め、BCP策定をし、職員にも周知徹底されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であっても利用者一人ひとりの人格を尊重することは基本です。どのような症状があっても尊厳を守る必要があるという事を忘れずに言葉遣いや態度の気を付けるよう職員に周知しています。	居室へ入室する際や個人の持ち物に触れる際には、必ず利用者本人の許可を得るなど配慮をしている。声かけ時には言葉遣いにも注意を払い、利用者の尊厳を傷つけないよう、職員間で周知徹底させている。新しい職員も入り、接遇などの研修会も検討していくとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が本人の様子をよく観察し、話しやすい雰囲気づくりに努め、本人の思いをじっくり聴き、自己決定を可能な限り行っていたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活であるため困難であるが、出来る限り個別対応に気を配るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みや趣味を尊重し、髪型や服装など出来るだけ本人の趣向に添えるよう努めます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状態にあわせ職員と一緒に食事の準備を行っている。利用者の食べたいものを取り入れてメニューを考えている。	宅配サービスも活用し、利用者の意向を取り入れながら、職員が調理をしている。クリニックの栄養士が3カ月に1回、献立の栄養バランスをチェックしている。誕生日会には利用者の食べたいメニューを取り入れたたり、食事の準備に参加できる利用者のサポートも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の身体状態に合わせて刻み食、ミキサー食、とろみ食など食事形態を変えている。食事、水分の摂取量を記録し状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員と一緒に歯磨きや入れ歯の洗浄を行っている。月2回定期的に歯科医が口腔内のチェック、口腔ケアを行っている。		

岐阜県 グループホームあだち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、状態に応じてトイレ誘導、見守りを行っている。極力オムツを使用しない支援を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本に支援している。個々の状態に合わせて、排泄用品を選択している。夜間は、ポータブルトイレを使用する人もあるが、利用者の状態に合わせて、声かけとトイレ誘導で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様一人ひとりの排泄状態を把握し、かかりつけ医に相談する。繊維質の食材を使うよう心掛けている。便秘予防体操や腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は決まっているが、入浴の順番や湯の温度については利用者の希望を聞いている。入浴をされない日は、足浴をしている。	入浴は、週2回を基本として支援を行っている。入浴順や湯温など本人希望を尊重し、ゆったり入浴できるよう配慮している。また入浴できない時には足浴を行っている。浴槽が広く深い為、今後、リフトの設置も検討していくとしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が休みたいときに自由に休んでいる。晴れた日は布団干しを行い、環境を整え気持ちよく眠れるよう支援している。浮腫みのある方には足を高くあげて休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際は手渡しし、必要に応じて介助し、飲みこみおえるまで確認している。処方変更の際は職員に申し送りをし、間違いの無いように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣向を凝らしたレクリエーションを行い、参加する中で楽しみを見つけられるよう支援している。また、洗濯たたみ、野菜ちぎりなど役割を持って生活している。誕生会は全員参加で行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけ、地域の方とも交流を図っている。家族にも協力してもらいお墓参りや食事・喫茶店や選挙に出かけられる方もいる。	新型コロナウイルス以前は、ドライブなどの行事を行っていたが、現在は活動を制限している。天気の良い日には、利用者数人ずつで近所を散歩するなど、外気浴で気分転換できるよう支援している。	

岐阜県 グループホームあだち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っている。現在コロナ禍であり利用者様と職員と一緒に買い物に行くのは困難な状況にあるので、希望を聞いて職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解のもと支援している。電話や手紙は希望があればいつでもやりとりできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員目線ではなく利用者様や家族様の意見を取り入れるようにしています。例えば電気を常に全灯するのではなく、明るすぎないように配慮してつけるなど自宅のようにホッとリラックスできるよう心掛けています。	日当たりの良い明るい場所に共用の居間がある。室内にクラシック音楽を流すなど、リラックスできる環境を整えている。利用者が取り組んだ塗り絵や作品などを掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室を設けることでプライベート空間を確保し、フロアの窓際に椅子を置き、テレビ鑑賞、日向ぼっこ等思い思いに過ごせるよう配慮している。各利用者は自由にフロアと自室を歩き来している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の不安や心配を減らすために、本人のなじみ深い家具や物品を持ち込んでいる。また、壁面には本人の作成した作品や職員の送った色紙などを飾っている。	居室には、家族の写真や誕生会で送られた色紙などが飾られている。エアコンと医療用ベッドが設置されており、それ以外に利用者の好みの衣装ケースや棚など持参し、家族や担当職員と相談しながら利用者の居心地が良い空間づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアには、大きく名前とを書いたイラスト付きのステッカーを張り、トイレには分かりやすい表示を掲げ、手すりを配置し広めに造ることで、自分で出来ることは極力自分で出来るように取り組んでいる。		